

【九州大学芸術工学部 芸術工学科 インダストリアルデザインコース】(2021 年度以降入学者)

1) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

教育の目的

インダストリアルデザインコースは、安全で快適な生活環境や製品を創造するために、人間の形態的、生理的、心理的、行動的特性についての人間理解、高度な機能を実現するための力学や制御などの基礎学問、測定理論、データ処理技術と解析に必要な基礎数理及びそれらを支援するコンピュータ利用技術、デザイン理論を踏まえた生活空間や生活機器をデザインするための調査・分析手法、デザインのプロセスと表現方法を身に付け、次の教育目標を達成したものに学士(芸術工学)の学位を授与する。

- ・人の生活や社会を支える「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」に主体的な関心を有する。
- ・人間の特性及び論理的にデザインを創造する、幅広い専門知識を有する。
- ・感性的・工学的・科学的アプローチを統合する能力を有する。
- ・創造した成果を説明・伝達でき、社会で実践できる能力を有する。

参照基準

- ・Institution of Engineering Designers, Product Design Specific Learning Outcomes for Accredited Degree Programmes
- ・Institution of Engineering Designers, Engineering Design Specific Learning Outcomes for EC(UK) Accredited Degree Programmes
- ・Chartered Institute of Ergonomics & Human Factors Professional Competencies Checklist
を参照。

到達目標

- A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。
- A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。
- C-2-融合. 異分野との協働を通して専門知識を総合的に活用しながら、社会の複合的な課題を発見・提起し、解決することができる。
- A-3. 文章表現能力、発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。
- B-1. 数学、物理学、情報学の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学の現象を説明することができる。
- B-2. 芸術工学の基盤となるデザインの具体的な知識・概念、考え方、方法について理解し、説明することができる。
- B-3-1. (知識・理解) 人間の形態的、生理・心理的な特性とデータ解析について理解し、説明することができる。
- B-3-2. (知識・理解) 感性的な思考をもとに論理的にデザインを創造する基盤となるクリエイティブ・デザインと人間工学について、幅広く理解し、説明することができる。
- C-1-国際. デザイン一般、及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学ぶことで、世界における先端的なデザイン活動に参画することができる。
- C-1-1. 人間の特性を科学的な方法によって明らかにすることができる。
- C-1-2. さまざまなデザイン対象を感性的・論理的な考え方・方法によって創造することができる。

- C-2-1. (評価・創造) 感性的・工学的・科学的アプローチを統合することができる。
- C-2-2. (評価・創造) 新しい知見を創出し、企画・設計すること、生成・構築することができる。
- C-2-融合. 異分野との協働を通して専門知識を総合的に活用しながら、社会の複合的な課題を発見・提起し、解決することができる。

D-1. (実践) 社会とのつながりを踏まえ、人間の特性をさまざまな側面から理解し、技術の再編・統合も含めた生活者の立場からの新しい俯瞰的視点を備え、安全・安心で魅力的な「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」を創造し、その成果を分かりやすく提案しようとする事ができる。

2) カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づき、別表(カリキュラム・マップ)の通り、教育課程を編成する。

アクティブ・ラーニングを重視する科目(基幹教育セミナー、課題協学)、ICT国際社会に必要な能力の向上を目指す科目(サイバーセキュリティ基礎論)、教養としての言語運用能力習得と異文化理解を目指す科目(学術英語、初修外国語)、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目(専門英語)、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目(文系ディシプリン、理系ディシプリン)、ライフスキルの向上を目指す科目(健康・スポーツ)、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目(総合、高年次基幹教育)などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働(A-1、2)」を培う。

専門教育においては、以下の通り、学修目標の達成に向けた学修を進める。

まず、1-2年次にデザインリテラシー科目、コース基礎科目、コース演習科目、コース専門科目(講義)を配置し、インダストリアルデザイン、プロダクトデザイン、ライフスケープデザイン、サービスデザインのデザインを創造するための基礎知識、人間の形態的、生理・心理的な特性、またそのデータの解析の人間の特性を理解するための人間工学の基礎知識を育成する(B-1、B-2)。

3年次以降は、コース演習科目、コース専門科目を配置し、人間の特性を明らかにする科学的な方法の習得と、さらに高度な専門知識を習得する。また、さまざまなデザイン対象を感性的・論理的な考え方・方法によって創造することで感性的・工学的・科学的アプローチを統合する能力、また、創造した成果を説明する能力を育成する(C-1、C-1-1、C-1-2、C-2-1、C-2-2)。

4年次には、コース融合プロジェクトA、B、インターンシップI、II、卒業研究I、IIを通して、専門知識を総合的に活用しながら、社会の複合的な課題を発見・提起し、解決する思考力と実行力を育成する(D-1)。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み(内部質保証)】

学修目標の達成度は、以下の方針(アセスメント・プラン)に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性がないかをインダストリアルデザインコースの下に設置する教務WGにおいて検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- ・「導入・基礎」期の評価：3年生進級時にクラス担任が学生と個別面談を行い総合的に調査する。
- ・「発展」期の評価：4年生進級時にコース担当教員が口頭試問を行い学修目標の達成度を確認する。
- ・「総合」期の評価：学びの集大成となる卒業研究終了時に指導教員が評価する。

3) アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

求める学生像

国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

加えて、インダストリアルデザインコースでは、次のような資質、意欲・関心を備えた学生を求めている。

1. 人間の特性と論理的にデザインを創造する幅広い専門知識を習得するために必要な基礎学力を有する。
2. 人間とは何かを考え、人間の生活や社会を支える「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」の創造に対して強い意欲を有する。
3. 社会的視点を持って物事を考え、実践する努力を惜しまない意欲を有する。

求める学生像と学力3要素との関係

- ① 知識・技能：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。特に上記の求める学生像1に対応している。
- ② 思考力・判断力・表現力等の能力：多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。特に上記の求める学生像2に対応している。
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：人間とは何かを考え、人間の生活や社会を支える「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」を創造することへの関心。多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する寛容性。特に上記の求める学生像3に対応している。

入学者選抜方法との関係

	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力等の能力	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜	調査書 大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査	調査書
総合型選抜	調査書 大学入学共通テスト	実技	調査書 志望理由書
学校推薦型選抜	推薦書 調査書 大学入学共通テスト 面接	推薦書 志望理由書 面接	推薦書 調査書 志望理由書 面接

芸術工学部芸術工学科 インダストリアルデザインコース カリキュラムマップ

凡例	科目区分	基幹教育必修	基幹教育選択必修	専攻教育 デザインリテラシー科目	専攻教育 コース基礎科目	専攻教育 コース演習科目 (PBL)	専攻教育 コース融合プロジェクト	専攻教育 コース専門科目	専攻教育 卒業研究・設計
(再掲は薄色表示)		基幹教育必修	基幹教育選択必修	専攻教育 デザインリテラシー科目	専攻教育 コース基礎科目	専攻教育 コース演習科目 (PBL)	専攻教育 コース融合プロジェクト	専攻教育 コース専門科目	専攻教育 卒業研究・設計

区分	学修目標	1年生				2年生				3年生				4年生						
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
実践	D-1. (実践) 社会とのつながりを踏まえ、人間の特性をさまざまな側面から理解し、技術の再編・統合も含めた生活者の立場からの新しい俯瞰的視点を備え、安全・安心で魅力的な「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」を創造し、その成果を分かりやすく提案しようすることができる。										インターンシップ I (1)				インターンシップ I (1)					
											インターンシップ II (1)				インターンシップ II (1)					
																			卒業研究 I・II	
																			卒業研究 I・II	
評価・創造	C-2-融合 異分野との協働を通して、専門知識を総合的に活用しながら、社会的複合的な課題を提起し、解決することができる。																		コース融合プロジェクトA	
																			コース融合プロジェクトB	
	C-2-2. 新しい知見を創出し、企画・設計すること、生成・構築することができる。																		卒業研究 I・II	
適用・分析	C-1-2. さまざまなデザイン対象を感性的・論理的な考え方・方法によって創造することができる。																		卒業研究 I・II	
																			卒業研究 I・II	
知識・理解	C-1-1. 人間の特性を科学的な方法によって明らかにすることができる。																		人間工学プロジェクト演習 (4)	
																			クリエイティブデザイン演習	
																			フィールド調査論・演習 (4)	
知識・理解	C-1-国際 デザイン一般、及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学ぶことで、世界における先端的なデザイン活動に参画することができる。																		リサーチリテラシー (1)	
知識・理解	B-3-2. (知識・理解) 感性的な思考をもとに論理的にデザインを創造する、幅広い専門知識を理解して説明できる。																			
	B-3-1. (知識・理解) 人間の形態的、生理・心理的な特性とデータ解析についての専門知識を理解して説明できる。																			
B-2. 芸術工学の基礎となる具体的知識や概念、考え方、方法について理解し、コースごとの専門にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを説明することができる。																				
B-1. 教養・専門基礎、リメディアルの3つを意識した科目を通して、知識を使える力を備えることができる。																				
主体的な学び・協働	A-3. 文章表現能力、発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。																			
	A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることことができる。																			
A-1. (専門的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。																				
区分	学修目標	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
	学士課程の時期区分	導入・基礎期								発展期				統合期						
	アセスメント・プラン	個別面談調査 (導入・基礎期)								口頭試問 (発展期)				卒業研究評価 (統合期)						